

5歳～11歳の新型コロナウイルスワクチン接種について

5～11歳の小児においてオミクロン株に対する発症予防効果は、30%程度ですが、入院等の重症化を防ぐ効果は約70%あります。小児は成人に比べて、接種後の副反応の出現頻度は低かったと報告されています。

コロナに感染した子どもの多くは軽症とされていますが、高熱が2～3日続きしんどいです。オミクロン株が主流になり熱性けいれんを起こす事例が増えています。今年1月から8月までに国内の20歳未満の死亡例は34例あり、7月以降は21例と増加しています。死亡例の内訳は急性脳炎、脳症などのけいれんを起こす疾患が全体の1/4を占め、他には循環器系の異常(心筋炎、不整脈)も同じ割合で認めました。ICUで管理される重症例は150例ほどもありました。死亡例、重症例の2/3は基礎疾患がなく、多くの方がワクチン接種をしていませんでした。コロナは単なる風邪と思われる方もおられますが、決して軽い病気とは言えません。

コロナに感染した方でも3か月程度で免疫は低下するので、再度感染する危険性があります。ワクチン接種でしっかりと免疫を高めた方が良いでしょう。

10月から3回目接種が始まります。3回目も1、2回目と同じ割合の副反応とされています。2回接種後、時間が経つと免疫は低下しているので、接種し、より免疫を強固なものにしましょう。

小児コロナワクチンは9月に接種努力義務に変わりました。これは成人と同様に接種するように努めなければならないということです。コロナは当たり前前の病気になり、これからはしばらく付き合っていかなければなりません。ワクチンは感染したとしても重症化を予防する効果があります。そしてみんなが接種することにより集団免疫を獲得し、感染を抑制することができます。どうかワクチン接種をお願いします。

子どもの接種履歴は母子健康手帳で管理しているため、接種当日は必ず母子健康手帳を持参してください。すべての子どもが接種できるように、全力でサポートしますので、ご協力宜しくお願い致します。